

## 循環器内科勉強会を開催しました。

令和4年7月20日(水) 18:00より医療生協 わたり病院様にて「循環器内科勉強会」を開催しました。大原総合病院 循環器内科 主任部長兼循環器センター長 國井 浩行先生より、「末梢動脈疾患(PAD)について」をテーマに約1時間行いました。会場には、医師を中心に15名の職員の方にご参加いただきました。

勉強会では、末梢動脈疾患の症状から血圧脈波(ABI)やエコー検査、CT・MRIを用いた血管撮影による診断方法、カテーテル治療、外科手術(バイパス手術)について画像や動画を活用しながら説明されました。

終了後、わたり病院様より「最新の知見を含めたご講演を頂き、大変勉強になりました。

今回の講演で学んだことを生かし、疾患の早期発見につなげ、他医療機関とのよりよい連携をすすめていければ、と気持ちを新たにしました」とお言葉を頂戴しました。

当院としましても今回の勉強会を通して、わたり病院様とお互いに意見交換を行うことができ、大変貴重な時間となりました。今後も地域との研修会等の企画がありましたら、運営支援を積極的に行って参ります。



当院の最新治療  
シリーズ

## 鼻茸を伴う慢性副鼻腔炎に新たな治療選択肢

大原総合病院  
耳鼻咽喉科部長 鈴木亮



従来、鼻茸を伴う慢性副鼻腔炎に対しては、内視鏡を用いた手術が有効で広く行われていますが、中には鼻茸が再発しやすく何度も手術をすることになったり、ステロイドを内服しなければいけなかったり治療に難渋することもあります。

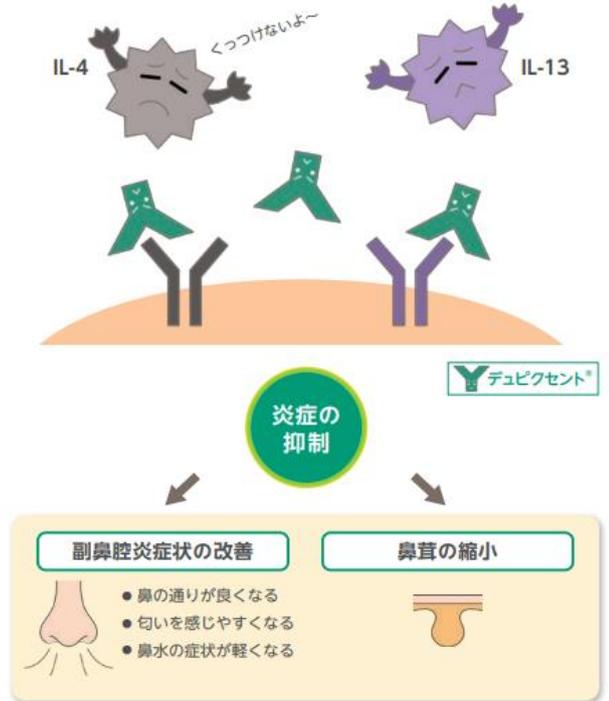
デュピクセントは、2020年3月に「鼻茸を伴う慢性副鼻腔炎(既存治療で効果不十分な患者に限る)」の効能を追加した、ヒト型抗ヒトIL-4/13受容体モノクローナル抗体(生物学的製剤)で、自己注射も可能な注射薬です。

鼻茸を伴う慢性副鼻腔炎で、手術をしても鼻茸が再発したり、既存の治療を行ってもコントロール不十分であり手術が適応とならない患者様が対象となる新たな治療薬です。

デュピクセントは、慢性副鼻腔炎の炎症や症状において中心的な役割を果たしているIL-4と13の働きをおさえます。これまでの治療ではうまくコントロールできなかった方でも、デュピクセントで治療することで炎症がおさえられ、副鼻腔炎の症状が改善したり鼻茸が小さくなるなどの効果が期待できます。

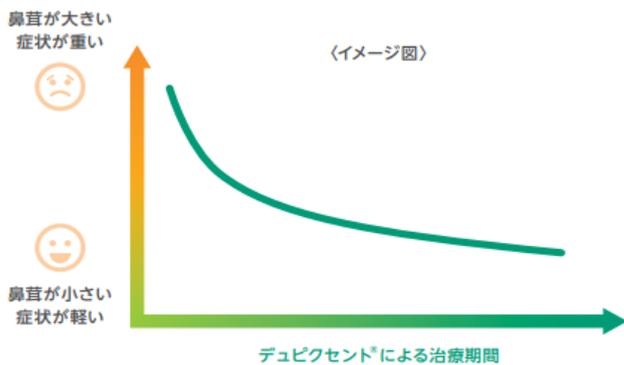
また、治療を続けることで良い状態を長期にわたって維持し、健康な人と変わらない日常生活を送ることも期待できます。

デュピクセント®で治療すると、以下の効果が期待できます



### 期待できるデュピクセント®の効果

- 鼻茸を小さくする効果
- 鼻づまりを改善する効果
- 匂いのわかりにくさを改善する効果
- 鼻水を改善する効果
- 長期にわたって症状をおさえる効果 など



本邦では、2018年にアトピー性皮膚炎の適応で販売が開始され、2019年に気管支喘息の効能が追加となり、これまでに効果と安全性が確認されています。

デュピクセントは、ペン製剤で1本58,775円（2週間ごとに1本を皮下投与）と高額な薬剤ですが、高額療養費制度や指定難病（好酸球性副鼻腔炎）などの医療費助成制度を利用することで、自己負担額が軽減されることがあります。当院でも処方体制を整えておりますので、鼻茸を伴う慢性副鼻腔炎により鼻閉や嗅覚障害、鼻汁などでお困りの患者様がおられましたら是非ご相談ください。

※当院の外来診療は全て完全予約制になります。

8月	月	火	水	木	金
午前	高取 隆 佐藤洋子	鹿野真人 野本幸男	鈴木 亮 久保田 叡 高取 隆	高取 隆 佐藤洋子	鹿野真人 野本幸男
午後	<特殊外来>	<特殊外来>	<特殊外来>	<特殊外来>	<特殊外来>

### 大原記念財団の理念 人を愛し、病を究める

私たちは、すべての患者さまとご家族のために常に一歩先を行く医療を探究し、優しさを持って最善を尽くす医療を実践することにより、地域から信頼される病院を目指します。

制作 大原総合病院 総合患者支援センター

発行者 一般財団法人大原記念財団

理事長 佐藤 勝彦

電話 024(526)0371 ダイヤルイン

FAX 024(526)0935

代表 024(526)0300

住所 福島市上町6番1号

### 大原記念財団職員行動規範 10カ条

私たちは、

1. 医療安全を確立し、安心と信頼を獲得します。
2. 命の尊厳を深く理解し、患者さまの権利を尊重します。
3. 優しさを持ち、気づきの医療を実践します。
4. 人間性豊かな医療人となるよう、常に自己研鑽します。
5. 新しきことへの挑戦し、質の高い医療を創造します。
6. 医療人としての誇りを持ち、如何なる時も最善を尽くします。
7. 医療情報の共有と活用を促進し、得られた情報は厳格に管理します。
8. 地域社会に支えられていることを認識し、医療連携を推進します。
9. 相互に敬意を払い、連携を密にして組織的に行動します。
10. 未来への発展のために、健全経営を目指して努力します。